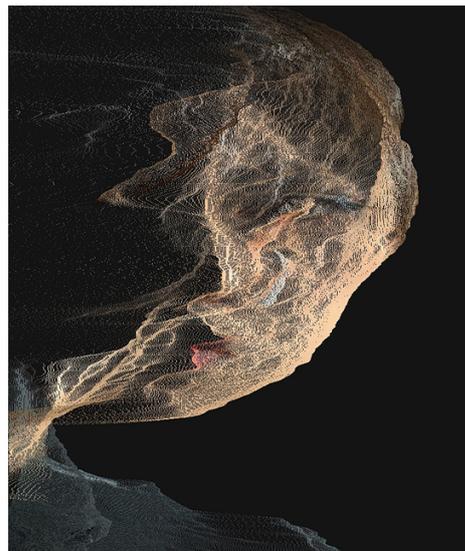


Invisible

KUNST ARZT では、昨年に引き続き、大越円香個展を開催します。
大越円香は、メディアと現代人との関係性を考察、
表現するアーティストです。

「もちゆくもの (2020)」では、出身地である秋田県能代市を撮影、
プリントした画面を薬品で溶解、剥離させることによって、
過疎化していく町並みの現状を現実以上に映し出しました。

それら薬品で溶解、剥離させる作品を主軸に、自身の身体の内
在をあえてデジタルメディアを通して確認する試みも展開して
います。ご注目ください。 (KUNST ARZT 岡本光博)



surface drawing
2021年
jpeg画像

展覧会について

アセトンを主成分にした薬品によって写真のインクの溶解、剥離を表面に起こしたオリジナルの作品本体を
マクロレンズで撮影し、印刷する。オリジナルと印刷物の比較から、肉眼では見ることができない作品表面の現象を捉える。
その物質性から目で見えているものと見ることができないものとの関係性を考察する。

経歴

- 1997 秋田県出身
- 2020 秋田公立美術大学ビジュアルアート専攻卒業
- 2021 情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) 在学中

個展

- 2019 不在の標本 (アトリオン2階 美術展示ホール/秋田市)
- 2021 Unaccounted for “ (Gallery TURNAROUND/仙台市)
- 2021 表層を観測する「Observe the surface」(KUNST ARZT/京都市)
- 2022 フラクタル台フラクチャー (秋田公立美術大学サテライトセンター/秋田市)

主なグループ展

- 2020 アートアワードトーキョー丸の内 (東京駅行幸ギャラリー/東京)
- 2020 SHIBUYA STYLE vol.14 (西武渋谷店/東京)
- 2021 SHOEREEL - 境界を往来するメディアアート - (秋田公立美術大学サテライトセンターほか/秋田市)
- 2021 SHIBUYA STYLE vol.15 (西武渋谷店/東京)

2022年10月11日(火)から16日(日)

12:00から18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

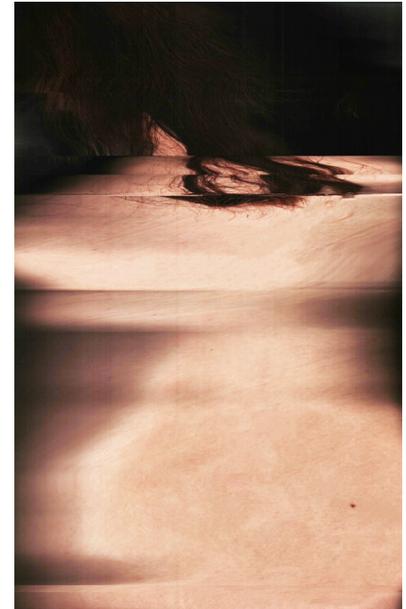
090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

Invisible

アーティスト・ステートメント

徹底的にメディアに支配された世界で、メディアと共に生きる生命の関係性をテーマとする。作品は一貫したメディウムを使用せず、既存のオブジェクトに対してグリッジをするような処理を行うことによって作品制作を行い、作品が現実以上の現実を表象することを目指して作品制作を行う。



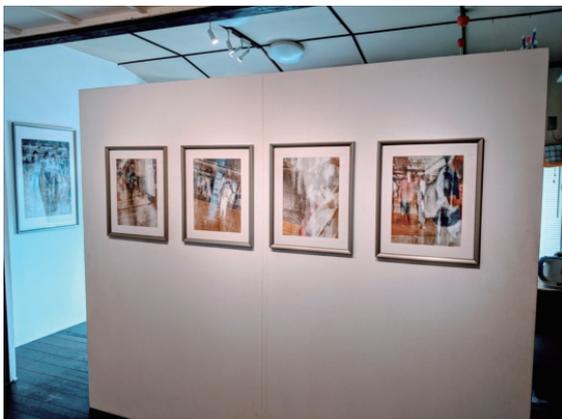
箱の中に帰す
2021年
ターポリンに印刷

箱の中の猫<身体>を、観測<表示>する時
2021年
jpeg画像

IAMAS OPEN HOUSE 2020 オンライン展示で発表。両作品は対になっている。「箱の中に帰す」は、「物質としての身体」をテーマに、「箱の中の猫<身体>を、観測<表示>する時」では、『オンラインにおける、画面の向こう側の他者に対する身体が存在』をテーマに制作している。

両作は、どちらも自身の身体をハンドスキャナーでなぞることによって撮影している。身体をなぞることによる撮影は、存在の強調であると同時に、自身の存在確認のための行為である。

「箱の中に帰す」は 2m×6m30cm の作品である。そのため、ハンドスキャナーの解像度では大きさに耐えることができない。解像度の低さは近くで見ることの曖昧さを示し、皮膚という体の内外のインターフェースの機能性と情報の含有量をイメージさせることを試みた。「箱の中の猫<身体>を、観測<表示>する時」と比較して、物質として展示をすることで、制作を通じた身体と情報の分解行為となり、皮膚という人間の表層的器官を観測することができる。



個展「表層を観測する」(2021)
展示風景



もちゆくもの
2020年
キャンバスにインクジェットプリント、漂白剤
1000×6000mm